

講義名	中国語グローバル基礎（GSP生用）			授業形態	
担当教員	蘭 梅	開講期・曜日・時限	前期 火曜日 4 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生

主題と概要

この授業はグローバル・スタディーズ・プログラム（GSP）の学生を対象とした「中国語A・B」の続きです。一年次の「中国語A・B」で習得したものを確認しながら、その上でレベルアップを図って授業を進めていきます。また、「読む・書く・話す・聞く」の4技能に力をつけていきながら、中国語検定4級レベルの達成を目指します。ハードな授業になることが予想されますが、受講者の可能性を最大限に伸ばし、「日本中国語検定試験」4級試験に合格することが、この授業の大きな目標です。

到達目標

中国語検定4級に合格できます。
 4技能に関する到達目標
 聞く：日常会話の内容を聞いて分かるようになる
 話す：日常会話の質問と答えができるようになる
 読む：300字程度の中国語の内容を理解することができるようになる
 書く：平易な作文ができ、内容の豊かな自己紹介文を書くことができるようになる

提出課題

毎回の授業では、学習内容の理解状況を確認するため、トレーニング用のプリントの提出をもらい、次回にフィードバックを行います。また、毎週宿題のプリントも配布します。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

前回の提出物の結果を講評してから理解の不充分のところを復習します。

評価の基準

本講義の評価基準は毎回の講義の受講態度と提出物、小テスト及び中間テストと期末試験の成績により総合的に評価をすることを基準とします。
 具体的な割合は：
 平常点（授業中の受講態度、課題の提出、小テスト）30%
 中間テスト30%、期末試験40%
 原則として授業に5回の欠席以上の場合は失格とします。
 以上の記載については初回の講義の際に、教室で詳しい説明を行います。
 原則として5回欠席の場合は失格とします。

履修にあたっての注意・助言他

語学の授業は実践的なものなので、声を出すことをいとわず、活発な取り組みを期待します。授業中の積極的態度は大いに評価し、宿題の提出状況も評価の対象となりますので注意してください。

教科書

.教科書を使用しない。

参考図書

.なし。

その他

授業計画

- 第1回 授業形態についての説明及び初級線の復習
- 第2回 ワークシート配布：文法：二重目的語をとる動詞/助動詞“会”
- 第3回 ワークシート配布：文法：存在の“有”/助動詞“可以”
- 第4回 ワークシート配布：文法：接続の“は”/動量詞
- 第5回 ワークシート配布：文法：結果補語/方向補語
- 第6回 ワークシート配布：文法：“把”構文/助動詞“能”
- 第7回 ワークシート配布：文法：比較文/持続の“着”
- 第8回 前半復習：ワークシート配布
- 第9回 ワークシート配布：文法：標語補語“是-的”構文
- 第10回 ワークシート配布：文法：可能補語/文末の“了”
- 第11回 ワークシート配布：文法：さらなる一歩文法
- 第12回 ワークシート配布：文法：さらなる一歩文法
- 第13回 ワークシート配布：文法：さらなる一歩文法
- 第14回 ワークシート配布：文法：さらなる一歩文法
- 第15回 総復習：ワークシート配布

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	<input type="radio"/>	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/>	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	<input type="radio"/>	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

本講義は中国語検定4級を目指すため、授業外での努力は欠かせません。
 その内容として：
 1、毎回の授業の後に、授業に行ったトレーニング問題を復習する
 2、Needleにアップした過去問題1回分の音声聞き取る
 3、次の過去問題を事前に回答しておく
 4、4級の単語の確認をする
 以上の勉強をするには、毎日40分以上の学習時間を確保するのが必要です。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

外国語を用いて「人と円滑なコミュニケーションをとることができる」資質・能力を育み、法学部生に求められる「各業界の動向や問題点を理解するための基礎知識」、経済学部生に求められる「人間、社会に関するこれまでの学問的成業の基礎」、人間社会学部生に求められる「日常生活と文化といった現実社会の様々なテーマ」に皆熟し「コミュニケーション能力」の育成を目指します。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考